

建 森 全

第143号

平成28年10月11日

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
永田町ビル 4 階一般社団法人
全国森林土木建設業協会発行者 高畑博之
責任者
TEL.03-3581-3336
FAX.03-3581-3341

「全森建」では、七月二十七日から二十九日までの三日間の日程で、都内千代田区永田町の永田町ビル四階の会議室において平成二十八年度森林土木総合技術研修を開催しました。

平成28年度 森林土木総合技 術研修を開催



御釜（蔵王連峰）

【写真提供：宮城県森林土木建設業協会】

この研修には、全国の各協（議）会に加入している会員、森林土木事業を実際に施工している企業等の会社経営者や幹部、現場主任技術者等からの参加申し込みがあり、研修参加者は二十七名でした。

この研修は当協会の公益目的支出計画に基づく事業であり、かつ、全日程を森林分野CPD対象研修として認定登録し、会員以外でも参加できる研修として計画しました。（講師の先生方の紹介・研修カリキュラム…二頁参照）

この研修の第一日目はオリエンテーション終了後、高畑博之全森建専務理事から「公共事業を取り巻く諸情勢」として、公共事業関係予算、我が国のインフラの将来像、公共事業の現状、問題点並びに課題、また、これからの森林土木業界に求められるもの等を内容

とする説明を行いました。

その後、（一社）森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）CPD管理室長の弘中義夫氏から「技術者倫理と継続研鑽（CPD）」と題して、技術者が守るべき法律と倫理に関する詳細な解説、また技術力の適正な評価、継続教育（CPD）の重要性等についての講義がありました。

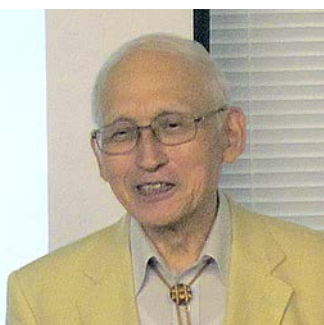
次に、治山の現場を熟知されている（株）山地防災研究所代表取締役の櫻井正明氏から「治山事業の施工に当たって―治山を知るための基礎知識―」と題して、治山事業の基礎となっている我が国の国土の特徴（変動地帯、湿润気候等）や森林の持つ国土保全機能等について解説した後で、人命・財産を守る防災施設としての治山施設の基本的な考え方やその施工方法、また、過去から現在まで発生した災害事例から学びながら取り組まれてきた技術開発などの講義がありました。

講義終了後は、会場を移動して講師の方々と研修生が参加した懇親の場では研修生の方々から、研修への意気込み等の自己紹介が行われ、時間の経つのも忘れて交流を深めました。

二日目は、一時限目として東京



「治山事業の施工にあたって
一治山を知るための基礎知識」
櫻井先生



「技術者倫理と継続教育
(CPD)」
弘中先生



「より良いコンクリート構造物を
造るための施工と管理」「今後の
入札制度で必要とされる技術員」
松野先生



「日本の路網技術」
酒井先生



「森林・林業の再生を支える
森林土木事業」
林先生



「労働安全のヒント」
奥田先生



「森林土木工事と会計検査」
宮原先生

講師の先生方

平成 28 年度 森林土木総合技術研修カリキュラム

月 日	時 間	研 修 科 目	講 師 (敬称略)
○第 1 日 7 月 27 日(木)	13:00~13:10	オリエンテーション・開講式	竹中三成 (全森建事務局長)
	13:10~13:30	公共事業を取り巻く諸情勢について	高畑博之 (全森建専務理事)
	13:40~14:50	「技術者倫理と継続教育(CPD)」について	弘中義夫 ((一社)森林・自然環境技術者教育会(JAFEE)CPD管理室長)
	15:00~17:00	「治山事業の施工にあたって 一治山を知るための基礎知識」	櫻井正明 (株式会社山地防災研究所 代表取締役)
	17:30~	意見交換会	
○第 2 日 7 月 28 日(木)	9:00~10:30	「日本の路網技術」について	酒井秀夫 (東京大学大学院教授)
	10:40~12:00	「より良いコンクリート構造物を造るための施工と管理」について	松野哲哉 (㈱CSTプロパティーセンター教育企画部次長)
	13:00~15:00	「今後の入札制度で必要とされる技術員」について	松野哲哉 (㈱CSTプロパティーセンター教育企画部次長)
	15:10~17:00	「森林土木工事と会計検査」について	宮原正治 (元会計検査院総括副長)
○第 3 日 7 月 29 日(金)	9:00~10:30	「労働安全のヒント」について	奥田吉春 (奥田技術士事務所(森林部門)代表)
	10:40~11:40	「森林・林業の再生を支える森林土木事業」について	林 茂 (林野庁森林整備部整備課森林土木専門官)
	11:40~12:00	閉講式 (修了証書交付)	



研修の様子

大学大学院教授の酒井秀夫氏から「日本の路網技術」と題して、日本列島の成り立ちの過程で生じる「付加体」と林道開設時に留意すべき「受け盤」・「流れ盤」の関係、また低コスト路網整備のポイント、林業専用道と森林作業道の関係についても分かりやすく講義いただきました。

二時限目は、「より良いコンクリート構造物を造るための施工と管理」として、(株)CSTプロパティセンター教育企画部次長の松野哲哉氏から良いコンクリート造るための基本、各種コンクリートひび割れ防止対策等の講義のほか、資料にない追加説明や自分が経験

されたことなどを交えた講義が行われ有意義な講習でした。

午後からは、引き続き、松野哲哉氏から「今後の入札制度で必要とされる技術員・法改正を含めた変化と技術者に求めること」として、品確法改正関係、建設事業継続計画（BCP）の評価項目の見直し、CIM（コンストラクション・インフォメーション・モデリング）（公共事業の計画から設計・施工・協議・維持管理等に係る各情報の一元化等）の理念、ISOの規格改定など、直接入札に関係する最新情報がふんだんに盛り込まれたことから研修生も真剣に受講しました。

二日目最後の講義は、元会計検査院総括副長の宮原正治氏から「森林土木工事と会計検査」について、会計検査院の役割や検査結果、実地検査における森林土木工事の指摘事例等について講義がありました。

最終日は、最近労働災害が多く発生している中、奥田技術士事務所代表の奥田吉春氏から「労働安全のヒント」の講義を受け、研修生一同、全ては現場にあり、念頭に置き労働災害の未然防止の重要性を肝に命じた講義でした。

最後の講義として、林野庁整備

課森林土木専門官の林茂氏から「森林・林業の再生を支える森林土木事業」と題して、森林・林業を巡る情勢、森林の多面的機能の発揮を支える森林土木事業について講義が行われました。

このように、研修生の皆さんは身近な施工関係の講義内容や、未知の分野についても見聞を広める機会になり、専門分野の各講師の内容ある十四時間の講義を受講しました。

研修の最後に閉講式を行い、高畑専務理事から研修生一人一人に修了証書を手渡し、実り多い三日間の研修を終了しました。

今後に向けては、より研修効果が高い講義内容を目指して、研修生の期待する講義をしていただく講師の依頼や、少しでも現場で役立つような講義となるよう検討を重ねていきます。

研修受講感想文

岩手県森林土木建設協会



株式会社平野組

佐藤寿明

この度、三日間にわたり「平成

二十八年年度森林土木総合技術研修」に初めて参加させていただきました。私は入社して二十年以上たちますが森林土木の工事には携わったことがありませんでした。今回、受講の機会があり、この研修会に参加する事ができました。

森林土木事業という経験したことのない分野でしたので、研修内容について理解できるのか、今後の仕事に生かせるのか不安な気持ちがありました。しかし、森林土木を主とする内容であり、現在携わっている仕事に関係する安全管理、コンクリート施工や、今後の入札制度、会計検査についてもなど、今後の仕事に役立つとても興味深い研修内容でした。

研修三日目の最後のカリキュラム「森林・林業の再生を支える森林土木事業について」の講義の中では、岩手県一関市を震源とした「岩手・宮城内陸地震」の内容がありました。冒頭、私は森林土木の工事に携わったことはないと思いましたが、この地震災害における林道緊急整備工事に携わり、地震により孤立した集落に取り残された方々の救助を目の当たりにしておりました。この研修を受け、當時を思い出すと同時に、林道の大切さ、その元となる森林整備事業・

治山事業の必要性について、理解することができました。

今回の研修を通じ、他では出会うことのない全国の技術者との情報交換をすることもでき、非常に有意義な三日間となりました。講師の方々も毎年新しい情報や講義内容の作成に取り組んでおられるようです。また機会があればこの研修会に参加し、自分自身の技術力の向上を図りたいと思います。ありがとうございます。



株式会社佐野組
望月竜一

平成二十八年七月二十七日から二十九日までの三日間に亘り、平成二十八年度森林土木総合技術研修に初めて参加させていただきました。

私は入社して十六年経ちますが、全国各地の技術者の方が受講する研修会は初めての経験であった事と、日頃山間部を作業着で歩き回る私にとってクールビズスタイルで都内を歩くことでさえも緊張であり新鮮な気持ちで研修を迎えました。

三日間の講義において、二日目

の(株)CSTプロパティーセンター教育企画部次長の松野哲哉先生に講義いただいた【より良いコンクリート構造物を造るための施工と管理】については、普段から馴染みのある講義だったこともあり、非常に興味深く受講させていただきました。コンクリートの性質、ひび割れの原因・対策、コンクリート施工まで等を、松野先生の知識と配付資料に掲載されていない自らの豊富な経験を交えながら、聞き手が吸い込まれるような非常に分かりやすい説明をいただき、とても勉強になりました。今まで普段の慣れから何気なく行っていたコンクリート施工も、この受講により、コンクリートの重要性を再確認することができました。

また、初日の研修終了後には会場を移動し行われた懇親会では講師の方々と研修生全員が参加し、懇親の場を設けていただいたのですが、突然の研修生による自己紹介のコーナーでは自分が何を喋ったのか憶えていないくらい緊張したのに対し、他の研修生の方々の堂々としたトーク力の高さに驚いたのを鮮明に覚えています。今回このような研修会に参加させていただき非常に勉強になり、とても有意義な三日間となりました。こ

の研修会で新たに得た知識を、私だけではなく社内や現場組織に浸透させていきたいと思っています。

最後になりますが、講師の方々をはじめ、全国森林土木建設業協会の皆様方にはこのような研修会を開催していただき心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。



明治建設有限公司
井上浩三

この度、平成二十八年七月二十七日より二十九日までの三日間、「森林土木総合技術研修」に初めて参加させていただきました。

その中で、特に、二日目の講義が大変印象に残りました。

(株)CSTプロパティーセンター教育企画部次長の松野哲哉講師による「より良いコンクリート構造物を造るための施工と管理」では、コンクリートの構成・性質から始まり、運搬・打込み・締固め・仕上げ・養生と一つ一つの作業の要点・留意点を丁寧に教えていただきました。コンクリートの品質確保の重要性について、大変勉強になりました。また、日光東照宮の

五重塔など昔の高度な建築技術の話には感動しました。

続いて、「今後の入札制度で必要とされる技術員」では、法改正による入札、契約の変化を丁寧に説明していただき、技術者としてこれからどうするべきか勉強になりました。また、技能労働者の技能の『見える化』システム、情報共有システムなどなどの公共工事のICT化には驚きました。

二日目最後の講義、元会計検査院総括副長の宮原正治講師の「森林土木工事と会計検査」では、会計検査院の仕事内容、会計検査の指摘事例などのお話を聞くことができました。十数年土木事業に従事し、これまで様々な講習を受けていましたが、会計検査お話しは初めてでとても勉強になりました。

今回、このような研修会に参加できたことを大変うれしく思います。研修で学んだ事を生かして、更なる知識と技術の向上に努めて社会や地域に貢献できるように頑張っていこうと思います。

最後になりますが、講義をしていただいた講師の皆様、(一社)全国森林土木建設業協会の皆様に心より感謝申し上げます。

平成 28 年度林野庁関係第 2 次補正予算の概要

林野関係合計 1,022 億円

(単位：百万円)

項 目	補正追加額		
	公 共	非公共	計
森林整備事業・治山事業	41,000		41,000
森林整備事業	31,000		31,000
治山事業	10,000		10,000
災害復旧等事業のうち 山林施設災害復旧等事業	25,286		25,286
CLT 利用促進総合対策*		1,000	1,000
合板・製材生産性強化対策		33,000	33,000
「クリーンウッド」利用推進事業		150	150
鳥獣被害防止対策のうち シカによる森林被害緊急対策事業		100	100
地域材利用拡大緊急対策事業		500	500
熊本地震木材加工流通施設 復旧対策事業		160	160
国立研究開発法人 森林総合研究所災害復旧事業		1,050	1,050
計	66,286	35,960	102,246

※ 1,000 百万円のほか合板・製材生産性強化対策で実施 (33,000 百万円の内数)

平成二十八年度補正予算（第二号）は、八月二十四日の臨時閣議

平成二十八年度
林野庁関係
補正予算の概要

を経て決定しました。林野庁予算については、一、〇二三億円が計上されました（表）。
このうち、公共事業費は、六六三億円が計上され、治山事業一〇億円、森林整備事業三一〇億円及び山林施設災害復旧等事業二五三億円が計上されました。

平成二十九年度林野庁関係
予算概算要求の概要

平成二十九年度予算は、「経済財政運営と改革の基本方針 2016」（平成二十八年六月二日閣議決定）を踏まえ、「平成二十九年度予算の概算要求に当たっての基本的な方針について（平成二十八年八月二日閣議了解）」に基づき概算要求が行われました。
農林水産省は、平成二十九年度予算の概算要求について、八月三十一日の農林水産省議を経て、同日に対前年度比一四・一％増の二兆六、三五〇億円を財務省へ提出しました。
林野庁の平成二十九年度予算概算要求額の総計は、対前年度比一七・二％増の三、四三六億三、八〇〇万円となっています。（表）
事業別概算要求額は以下のとおりとなっています。

I 森林整備事業（公共）
【一四四、三四三（二二〇、二八六）百万円】
◎〈対策のポイント〉
森林吸収量の確保に向け施業の集約化や森林整備の低コスト

化を図り、間伐や路網整備、主伐後の再造林等を推進するほか、条件不利地等における森林整備を推進します。

◎〈背景／課題〉
我が国の豊富な森林資源を循環利用し、安定的な木材の供給体制の構築に資するとともに、地球温暖化防止対策としての森林吸収量 3・5％の確保に向け、施業の集約化を図り、間伐や主伐後の再造林、路網の整備等を推進するとともに、鳥獣害防止施設の整備等を推進する必要があります。

◎〈政策目標〉
森林吸収量の算入上限値 3・5％（平成 2 年度比）の確保に向けた間伐の実施（平成 25 年度から平成 32 年度までの 8 年間の年平均・52 万ヘクタール）

◎〈主な内容〉
一 施業の集約化を図り、間伐やこれと一体となった路網の整備、主伐後の再造林等を推進します。その際、鳥獣害防止施設の設置・改良や、伐採

と造林の一貫作業システムの導入等を通じた森林整備の低コスト化を進めながら健全な森林の育成を推進します。

・森林環境保全直接支援事業

【三八、二五二】

（二三、八二〇）百万円】

・林業専用道整備対策

【一三、六五六】

（二〇、七三二）百万円】

二 奥地水源林であって、所有者の自助努力によつては適正な整備ができない森林において公的主体による間伐や針広混交林への誘導などを推進します。

・環境林整備事業

【三、八〇〇】

（二、六四三）百万円】

・水源林造成事業

【二七、〇三七】

（二四、八四五）百万円】

Ⅱ 治山事業（公共）

【七一、六六七】

（五九、七三三）百万円】

◎〈対策のポイント〉

自然災害に対する山地防災力の強化に向け、荒廃山地の復旧整備とともに、保安林の水土保持機能の強化等による事前防災・減災対策を推進します。

◎〈背景／課題〉

○ 地震・集中豪雨等による山地災害が各地で頻発しており、国民の生命・財産を守るため、治山対策を推進する必要があります。

○ 森林・林業基本計画において、地域の安全性向上に資するため、浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林の維持・造成を推進するとされていることを踏まえ、人工林の針広混交林化による水土保持機能の強化を図る必要があります。

◎〈政策目標〉

周辺の森林の山地災害防止機能等が適切に発揮された集落の増加（5・5万集落（平成25年度）→5・8万集落（平成30年度））

◎〈主な内容〉

一 地震・集中豪雨等に対する山地防災力の強化のため、荒廃山地の復旧整備を実施するとともに、保安林の針広混交林化による水土保持機能の強化や予防治山対策により事前防災・減災対策を推進します。

・復旧治山事業

【二六、六七三】

（二二、〇七四）百万円】

・民有林直轄治山事業

平成29年度 林野庁関係予算概算要求の概要

1. 総括表

平成28年 8 月

区 分	平成28年度当初予算額 百万円	平成29年度概算要求額 百万円	対前年度比 %
公共事業費	189,983	225,984	118.9
一般公共事業費	180,009	216,010	120.0
治山事業費	59,723	71,667	120.0
森林整備事業費	120,286	144,343	120.0
災害復旧等事業費	9,974	9,974	100.0
非公共事業費	103,314	117,654	113.9
合 計	293,297	343,638	117.2

（注）1 上記のほか、農山漁村地域整備交付金及び農山漁村振興交付金に、林野関係事業を措置している。

2 復旧・復興対策は、下記2に整理。

2. 東日本大震災からの復旧・復興対策（東日本大震災復興特別会計計上）

項 目	平成28年度当初予算額 百万円	平成29年度概算要求額 百万円	対前年度比 %
公共事業費	30,352	32,018	105.5
非公共事業費	6,254	6,254	100.0
合 計	36,606	38,272	104.5

・緊急予防治山事業

【三、〇三二】

（二、五〇〇）百万円】

（八、〇四六）百万円】

・水源地域等保安林整備事業

【九、九七一】

【二二、八五五】

（二二、〇六五）百万円】

二 地震や集中豪雨等の激甚な

災害により崩壊や崩壊危険箇所が発生した箇所において、崩壊箇所等の調査や、土石流等の流下を防ぐ対応を、治山施設の設置や防災林の整備等と一体的に実施します。

・復旧治山事業（再掲）

【二六、六七三

（二二、〇七四）百万円】

・防災林造成事業

【三、三四〇

（二、七二〇）百万円】

三 情報化施工などの先進技術

等の定着・普及を図り、治山事業の省力化・効率化を推進します。

・復旧治山事業（再掲）

【二六、六七三

（二二、〇七四）百万円】

・地すべり防止事業

【四、五六四

（四、一一五百万円）

Ⅲ 農山漁村地域整備交付

金（公共）

【二二七、九八〇

（二〇六、六五〇）百万円】

◎〈対策のポイント〉

地方の裁量によって実施する農林水産業の基盤整備や農山漁村の防災・減災対策を支援しま

す。

◎〈背景／課題〉

○ 地域の特色を活かした地域活性化を図るためには、地域の創意・工夫によって、生産現場の強化につながる農林水産業の基盤整備を進めることが必要です。

○ また、農山漁村地域において、地震・津波対策はもとより、集中豪雨等の頻発化・激甚化に対応するためには、防災・減災対策を推進することが必要です。

○ このため、都道府県の裁量により事業を実施することが可能な交付金を措置することにより、強い農林水産業のための基盤づくりを推進する必要がある。

◎〈政策目標〉

○ 担い手が利用する面積が今後10年間（平成35年度まで）で全農地面積の8割となるよう農地集積を推進

○ 二酸化炭素の森林吸収率3・5%の確保等に必要道路網の整備

○ 海岸堤防等の整備率69%（平成32年度）

◎〈主な内容〉

一 都道府県又は市町村は、農

山漁村地域整備の目標等を記載した農山漁村地域整備計画を策定し、これに基づき事業を実施します。

二 農業農村、森林、水産の各

分野において、農山漁村地域の生産現場の強化や防災力の向上のための事業を選択して実施する事ができます。

また、これと一体となつて事業効果を高めるために必要な効果促進事業を実施することができます。

農業農村分野・農用地整備、農業用排水施設整備等

森林分野・予防治山、路網整備等

水産分野・漁港漁場整備、漁村環境整備、海岸保全施設整備等

三 国から都道府県に交付金を交付し、都道府県は自らの裁量により地区毎に配分できます。また、都道府県の裁量で地区間の融通が可能です。（水産分野の一部事業については、市町村への直接交付も可能。）

Ⅳ

森林整備事業・治山事業（公共）

【復旧・復興対策二〇、四九五（二九、三二一）百万円】

◎〈対策のポイント〉

○ 間伐等の実施により、東日本大震災の被災地における「災害に強い森林づくり」を進めます。

○ 東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧・再生や山腹崩壊地等の復旧整備を通じ、地域の安全・安心を確保します。

◎〈背景／課題〉

○ 東日本大震災により、青森県から千葉県までの140kmに及ぶ海岸防災林が被災するとともに、山地においても多くの箇所で山腹崩壊、林道施設等の被害が発生しており、台風や豪雨等により更なる被害の拡大が懸念されます。

○ 福島第一原子力発電所の事故により放散された放射性物質の影響のある地域では、森林所有者の経営意欲の減退、被ばくへの不安等から、森林整備が停滞するおそれがあり、森林の公益的機能の低下が懸念される状況となっています。

◎〈政策目標〉

○ 土壌を保持する能力等が良好に保たれている森林の割合の増加。

○ 海岸防災林の復旧・再生は、

林帯地盤等の復旧が完了した箇所から順次、植栽を実施。全体の復旧は平成 23 年から概ね 10 年間で完了することを目指します。

◎〈主な内容〉

一 森林整備事業

豪雨等による森林からの放射性物質を含む土砂の流出防止を図るため、岩手、宮城、福島、の被災 3 県において、放射性物質対策と一体となった間伐等を行う森林所有者等への支援を行う。「被害に強い森林づくり」を進めるとともに、特に放射性物質の影響等により、森林所有者による整備が進み、難しい人工林等において、公的主体による緊急的な間伐等を進めます。

二 治山事業

東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧・再生や山腹崩壊地等における復旧整備を進めます。

・森林整備事業

【五、八五七

(五、二五九) 百万円】

・治山事業

【一四、六三八

(一四、〇六二百万円】

熊本地震災害の 復興支援について

熊本地震が発生して半年が経過し、今なお余震が続いています。一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

当協会では、地震発生後の四月十六日、「熊本地震対策本部」を設置し、林野庁から物資支援等の協力依頼を受けて、各協(議)会に支援等をお願いしました。各協(議)会においては、関係団体を通じてご支援いただいたほか、協会単独で義援金、支援物資等のご提供もいただきました。このような中、今回、緊急に食料等の支援をいただいた、東京都森林土木建設業協会と福岡県森林土木建設業協会に對



東京都森林土木建設業協会

して、農林水産大臣から感謝状が授与されましたのでご披露いたします。



福岡県森林土木建設業協会

林野庁幹部人事異動

次のとおり異動がありました。

平成二十八年八月一日付け

◇林野庁計画課海外森林資源情報分析官
黒川 正美

◇林野庁森林整備部長
織田 央

◇林野庁国有林野部長
(林野庁計画課長)
本郷 浩二

◇北海道森林管理局長
(林野庁森林整備部長)
本郷 浩二

◇北海道森林管理局長
(九州森林管理局長)
測上 和之

◇九州森林管理局長
池田 直弥

◇林野庁計画課長
(林野庁整備課長)
小坂 善太郎

◇林野庁整備課長
(林野庁業務課長)
小島 孝文

◇林野庁業務課長
(林野庁木材産業課長)
吉村 洋

◇林野庁木材産業課長
(林野庁木材産業課長)
宮澤 俊輔

◇林野庁研究指導課長
(林野庁研究指導課長)
上 練三

◇林野庁整備課造林間伐対策室長
(大臣官房政策課調査官)
関口 高士

◇林野庁管理局計画保全部長
(東北森林管理局計画保全部長)
関口 高士

平成二十八年九月一日付け

◇林野庁木材利用課課長補佐
(貿易第 2 班担当)
高柳 威晴

◇林野庁治山課課長補佐
(林野庁治山課課長補佐)
高柳 威晴

◇林野庁治山課課長補佐
(施設計画班担当)
(施設計画班担当)
芦田 真亜

◇林野庁治山課課長補佐
(林野庁治山課課長補佐)
(施設計画班担当)
(施設計画班担当)
芦田 真亜

地方協会だより (9)

富山県協会における林務委員会の活動

— (一社)富山県建設業協会 林務委員会—

1 林務委員会の生い立ち

平成二十年五月二十七日に富山県林務建設業協会と富山県土地改良建設業協会、(社)富山県建設業協会の三協会が再編されて現在の形になって、足かけ九年になります。現協会には、総務委員会をはじめ、土木、舗装専門、建築、労務経営、暴排、青年の各委員会とともに、再編に伴って設置した林務と土地改良を加えた八委員会、一専門委員会があります。林務委員会には、県内の八支部から各一二社選出された計十三名が所属しています。

現協会の会員数は五百六十一社ですが、林野公共事業に関わる会員数ということになると、それぞれの会員企業は特にどこかの委員会に属するという仕組みにはなっておりませんので、実数で把握するのは難しい状況です。

2 林務委員会としての事業

平成二十八年度に林務委員会が主催する事業は、

① 林務委員会の開催 三回

② 視察研修 一回

③ 技術研修会 二回

④ 県との意見交換会

(本庁)二回

(出先)一回

⑤ 要望書の提出

(知事等、林野庁等) 二回

を予定しています。

このうち、④県との意見交換会は、県農林水産部幹部と委員会では、一回、県出先機関である四カ所の農林振興センター所長と委員会では一回、県幹部と協会各支部役員等(林務委員中心のメンバー)で一回の計三回行うこととしています。

また⑤要望書の提出は、林務委員会単独で県部長に要望するほか、林務委員会として参画する県林政連盟として、林野庁長官や県選出国会議員に要望することとしています。

3 これからの林務委員会

協会本部としての活動や各支部での活動が種々行われる中で、林務委員会ならではの活動をどのように組み込んでいくか、全森建からの情報等に対してどのように周

知・対応していくのかなどが課題です。

この課題への取組の一つとして、昨年度から始めたのが前述二の農林振興センター所長との意見交換会です。

それまで県本庁との意見交換会は行っていたのですが、地域の安心・安全の守り手として、地域に根差しているからこそ見える課題、地域ごとに異なる課題等を担当所長と情報交換し、共通の課題として取り組む必要があるのではないかと認識から、県に企画提案し始められました。

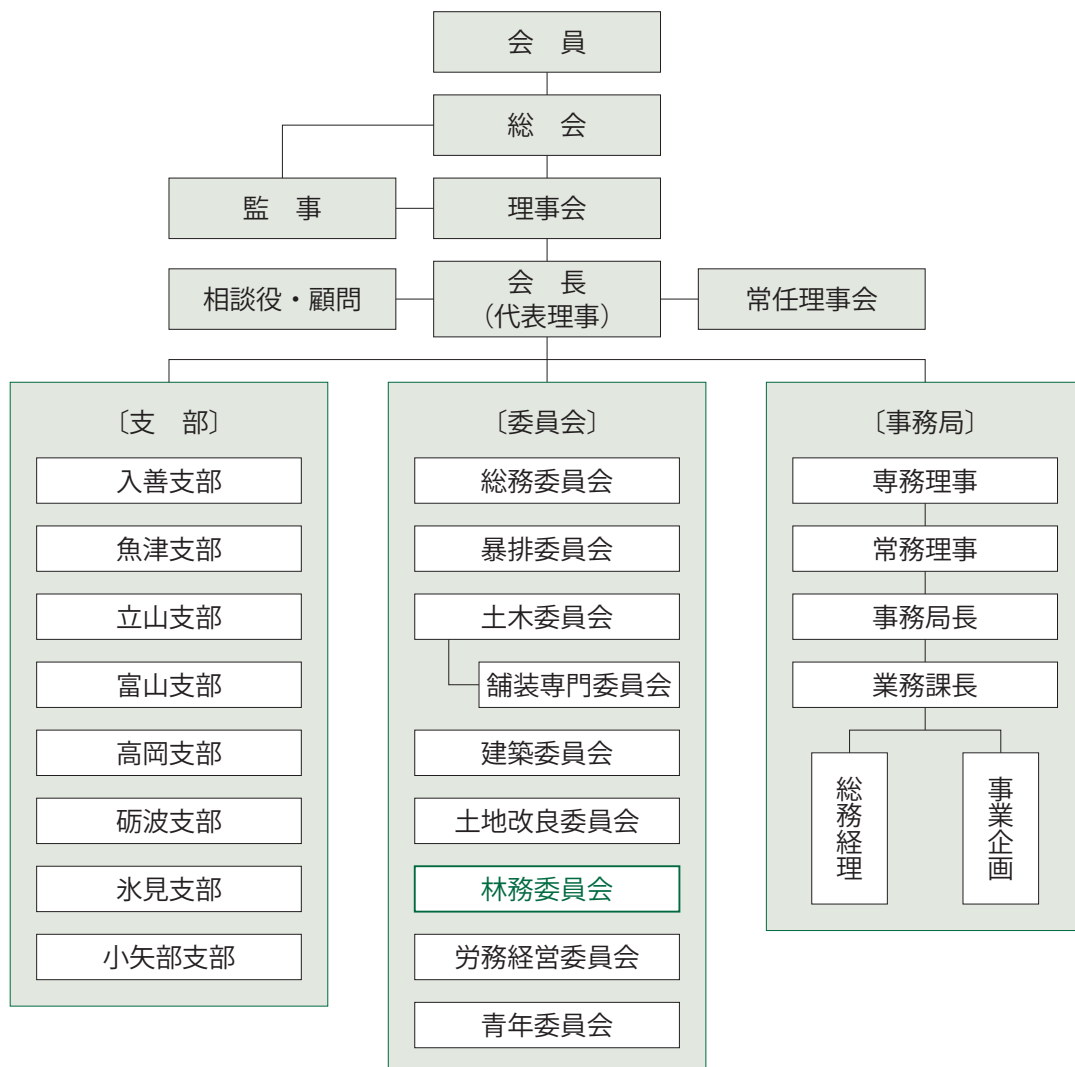
担い手三法が改正され、発注者側において様々な取組が進められて経営環境も改善されつつありますが、今後さらに、地域建設企業としての社会的な責任・貢献に向けて、率直に意見交換できる機会となるよう期待されているところです。

4 おわりに

平成二十九年五月二十八日(日)には、第六十八回全国植樹祭が富山県魚津市で開催されます。

地方協会だより (9)

一般社団法人 富山県建設業協会 組織図



当林務委員会としても積極的に関わっていきいたいと考え

ていますが、全国の皆様のご来県をお持ちしております。

編集後記

「全森建」技術・労働委員会
(東京都千代田区)

11月28日

◎宮城県森林土木建設業協会から表紙写真に併せ、紅葉の鳴子峡の写真のご提供がありましたので、紹介いたします。



◎各省庁の平成二十九年度予算の概算要求が八月三十一日に出揃い、予算編成作業が本格的にスタートしました。

◎林野庁一般公共予算の概算要求額を確保するために十二月に向けて活動を強化していきたいと思っておりますのでご支援願います。